



# アップグレード

---

- [アップグレード手順](#) (1 ページ)
- [サポートされているアップグレードおよび移行パス](#) (1 ページ)
- [要件および制約事項](#) (6 ページ)

## アップグレード手順

システムのアップグレード方法の詳細な手順については、次の URL にある『*upgrade And Migration Guide for Cisco Unified Communications Manager AND IM* およびプレゼンスサービス、リリース 11.5(1)』を参照してください。

[http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/cucm/upgrade/11\\_5\\_1/cucm\\_b\\_upgrade-guide-cucm-115.html](http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/cucm/upgrade/11_5_1/cucm_b_upgrade-guide-cucm-115.html)

## サポートされているアップグレードおよび移行パス

次の表を使用して、現在インストールされているバージョンからアップグレードまたは移行ができるかどうかおよびサポートされているアップグレード方法のどれを使用できるかを決定します。

- Cisco Unified CM OS の管理インターフェイスまたは Cisco Prime Collaboration Deployment (PCD) アップグレードタスクを使用した直接アップグレード
- PCD の移行タスクを使用した移行

最新リリースからのアップグレードまたは移行がサポートされていない場合は、*Cisco Unified Communications IM* およびプレゼンスサービス *Service* のアップグレードおよび移行ガイドの「レガシーリリースからのアップグレード」の章。

## Cisco メディア コンバージョン サーバハードウェアでの展開

サーバハードウェアで Cisco Unified Communications Manager と IM およびプレゼンスサービスを直接インストールまたは実行することはできません。これらのアプリケーションは仮想マシン

ンで実行する必要があります。次の表は、Cisco 7800 シリーズメディア コンバージェンス サーバー (MCS 7800) ハードウェア上で現在実行中の導入でサポートされている移行パスを示しています。以下のサポートされている移行パスは、すべて物理/仮想 (P2V) の移行です。



(注) 次の表は、以下の例外を除く、MCS 7800 シリーズ サーバでサポートされているアップグレードパスを示しています。

- MCS 7816-C1 for Business Edition 3000 (BE3000)
- MCS 7828 for Business Edition 5000 (BE5000)

PCD の移行は、BE3000 および BE5000 の導入ではサポートされません。これらの製品のアップグレードには新規インストールをお勧めします。

表 1: *Unified Communications Manager MCS 7800* シリーズ ハードウェアにインストールされたリリース

遷移元	目的	サポートされている方法
6.1(5)	11.5(x)	PCD の移行
7.1(3) および 7.1(5)	11.5(x)	PCD の移行
8.x	11.5(x)	PCD の移行
9.x	11.5(x)	PCD の移行

表 2: *MCS 7800* シリーズ ハードウェアにインストールされた *Cisco Unified Presence* および *IM and Presence* リリース

遷移元	目的	サポートされている方法
CUP 8.5(4)	11.5(x)	PCD の移行
CUP 8.6(3)、8.6(4) および 8.6(5)	11.5(x)	PCD の移行
IM and Presence 9.x	11.5(x)	PCD の移行

## 仮想マシンでの展開

次の表は、現在仮想マシン上で実行中の Cisco Unified Communications Manager および IM およびプレゼンスサービス 展開でサポートされているアップグレードおよび移行パスを示しています。以下のサポートされるアップグレードおよび移行パスは、すべてバーチャル-バーチャル (V2V) です。特に明記されていない限り、各パス内のサービスアップデート (SU) はサポートされています。

表 3: *Unified Communications Manager* 仮想マシンにインストールされているリリース

遷移元	目的	サポートされている方法
8.6(x)	11.5(x)	Cisco Unified OS の管理 (直接更新) PCD の移行 PCD のアップグレード (直接更新)
9.0(x)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接更新)
9.1(x)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接更新) Cisco Unified OS の管理 (直接更新)
10.0(x)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接標準)
10.5(x) (注) 一部の 10.5(2)SU リリースには例外があります。詳細については、 <a href="#">リリース 11.5(x) へのアップグレードパスの制限 (4 ページ)</a> を参照してください。	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接標準) Cisco Unified OS の管理 (直接標準)
11.0(1)	11.5(x)	Cisco Unified OS の管理 (直接標準) PCD の移行 PCD のアップグレード (直接標準)
11.5(x)	11.5(y)	Cisco Unified OS の管理 (直接標準) PCD の移行 PCD のアップグレード (直接標準)

表 4: 仮想マシンにインストールされている *Cisco Unified Presence* および *IM and Presence* のリリース

遷移元	目的	サポートされている方法
CUP 8.5(4)	11.5(x)	PCD の移行
CUP 8.6(3)、8.6(4) および 8.6(5)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接更新)
CUP 8.6(x)	11.5(x)	Cisco Unified OS の管理 (直接更新)
IM and Presence 9.0(x)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接更新)
IM and Presence 9.1(x)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接更新) Cisco Unified OS の管理 (直接更新)
IM and Presence 10.0(x)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接標準) PCD のアップグレード (直接標準)
IM and Presence 10.5(x)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接標準) Cisco Unified OS の管理 (直接標準)
IM and Presence 11.0(1)	11.5(x)	Cisco Unified OS の管理 (直接標準) PCD の移行 PCD のアップグレード (直接標準)
IM and Presence 11.5(x)	11.5(y)	Cisco Unified OS の管理 (直接標準) PCD の移行 PCD のアップグレード (直接標準)

## リリース 11.5(x) へのアップグレードパスの制限

通常、アップグレードパスと移行パスは、各パス内のサービスアップデート (SU) をサポートします。ただし、特定の SU リリースにはいくつかの例外があります。次の表に、Cisco Unified Communications Manager リリース 11.5(x) へのアップグレードおよび移行の例外を示します。

表 5: サポートされているアップグレードおよび移行パスの制限、Cisco Unified Communications Manager リリース 11.5(x)

遷移元	目的	説明
10.5(2)SU5	11.5 (1.10000-6) ~ 11.5 (1.120 xx)	パスはサポートされていません。これらのリリースでは、代わりに 11.5(1)SU2 にアップグレードします。

## リリース 11.5 へのアップグレードに必要な COP ファイル

次の表は、COP ファイルが必要なアップグレードパスを示しています。Cisco Unified OS 管理インターフェイスを使用してアップグレードを開始する前、または Prime Collaboration Deployment (PCD) ツールを使用してアップグレードまたは移行を開始する前に、各ノードに COP ファイルをインストールする必要があります。PCD を使用している場合は、アップグレードを開始する前に COP ファイルの一括インストールを実行できます。

表 6: Cisco Unified Communications Manager リリース 11.5(x) へのアップグレードおよび移行に必要な COP ファイル

遷移元	目的	アップグレードタイプ
8.6(x)	11.5(x)	更新アップグレード：必須 COP ファイル。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ciscocm.version3-keys.cop.sgn</li> </ul> オプションの COP ファイル： <ul style="list-style-type: none"> <li>ciscocm.vmware-disk-size-reallocation-&lt;latest_version&gt;.cop.sgn</li> <li>ciscocm.free_common_space_v&lt;latest_version&gt;.cop.sgn</li> </ul>
9.1(x)	11.5(x)	更新アップグレード：必須 COP ファイル： <ul style="list-style-type: none"> <li>ciscocm.version3-keys.cop.sgn</li> </ul> オプションの COP ファイル： <ul style="list-style-type: none"> <li>ciscocm.vmware-disk-size-reallocation-&lt;latest_version&gt;.cop.sgn</li> <li>ciscocm.free_common_space_v&lt;latest_version&gt;.cop.sgn</li> </ul>
10.5(x)	11.5(x)	標準アップグレード：COP ファイルは不要。
11.0(x)	11.5(x)	標準アップグレード：COP ファイルは不要。
11.5(x)	11.5 ((y))	標準アップグレード：COP ファイルは不要。

表 7: Cisco Unified Presence リリースからの更新アップグレードに必要な COP ファイル

元の Cisco Unified Presence Release	アップグレード先の IM and Presence リリース	アップグレードタイプ
8.5(4) ~ 8.6(1)	11.5(x)	更新アップグレード。以下の COP ファイルが必要： <ul style="list-style-type: none"> <li>cisco.com.cup.refresh_upgrade_v&lt;latest_version&gt;.cop</li> <li>ciscocm.version3-keys.cop.sgn</li> </ul>

表 8: IM およびプレゼンスサービス リリースからの更新アップグレードに必要な COP ファイル

元の IM and Presence リリース	アップグレード先の IM and Presence Release	アップグレードタイプ
9.1(x)	11.5(x)	更新アップグレード。以下の COP ファイルが必要： <ul style="list-style-type: none"> <li>ciscocm.version3-keys.cop.sgn</li> </ul>
10.5(x)	11.5(x)	標準アップグレード：COP ファイルは不要。
11.0(x)	11.5(x)	標準アップグレード：COP ファイルは不要。
11.5(x)	11.5(y)	標準アップグレード：COP ファイルは不要。

## 要件および制約事項

ここでは、システムをアップグレードする際に考慮する必要がある要件と制限事項について説明します。

### スタンドアロン Prime ライセンス マネージャでのアップグレード要件

Cisco ユニファイド コミュニケーション マネージャ リリース 11.5(1)SU3、SU4、SU5 および SU6 は、Cisco PRIME ライセンス マネージャ リリース 11.5(1)SU2 以降と互換性があります。スタンドアロンの Cisco PRIME ライセンス マネージャを導入する場合は、お使いの PRIME ライセンス マネージャのバージョンが最低でも 11.5(1)SU2 であることを確認してください。それ以外の場合、Cisco ユニファイド コミュニケーション マネージャは、スタンドアロンの PRIME ライセンス マネージャとライセンスの使用状況を同期できません。

これらの Cisco ユニファイド コミュニケーション マネージャ リリースのいずれかをアップグレードし、PRIME ライセンス マネージャのスタンドアロンバージョンを実行している場合は、Cisco ユニファイド コミュニケーション マネージャをアップグレードする前に、PRIME ライセンス マネージャ インスタンスを 11.5(1)SU2 以降にアップグレードしてください。



- (注) 共存可能なPRIMEライセンスマネージャを導入すると、CiscoユニファイドコミュニケーションマネージャとCiscoPRIMEライセンスマネージャは自動的に互換します。

## アップグレード時の Cisco Jabber

IMおよびプレゼンスサービスをアップグレードするときに、すべてのユーザがCisco Jabberからログアウトする必要はありません。ただし、ベストプラクティスとしては、ユーザはアップグレード中にCisco Jabberからログアウトします。

## 非推奨の電話のモデル

### 非推奨の電話機を含むアップグレード

以前のリリースのこれらの電話機のいずれかを使用していて、このリリースにアップグレードする場合は、次の操作を実行します。

1. ネットワーク内の電話機が、リリース11.5でサポートされているかどうかを確認します。
2. サポートされていない電話機を確認します。
3. サポートされていない電話機の場合は、電話の電源を切り、ネットワークから電話を切断します。
4. この電話機のユーザに、サポートされる電話機をプロビジョニングします。移行FXツールを使用して、古いモデルから新しいモデルの電話機に移行することができます。詳細については、[http://refreshcollab.cisco.com/webportal/46/CUCM%20Readiness%20Assessment#endpoint\\_refresh\\_tool](http://refreshcollab.cisco.com/webportal/46/CUCM%20Readiness%20Assessment#endpoint_refresh_tool) を参照してください。
5. ネットワーク内のすべての電話機がリリース11.5でサポートされたら、システムをアップグレードします。



- (注) 非推奨の電話機は、アップグレード後に削除することもできます。管理者がアップグレードの完了後に、Ciscoユニファイドコミュニケーションマネージャにログインすると、システムに非推奨の電話機の管理者に通知する警告メッセージが表示されます。

### ライセンスング

非推奨の電話機とサポートされている電話機を交換するために、新しいデバイスライセンスを購入する必要はありません。システムから非推奨の電話機を削除するか、新しいCiscoユニファイドコミュニケーションマネージャバージョンに切り替えて、非推奨の電話機が登録できなくなると、新しい電話機のデバイスライセンスが使用可能になります。

## CLIによって開始される IM and Presence のアップグレードに必要な OS 管理者アカウント

**utils system upgrade** CLI コマンドを使用し IM およびプレゼンスサービス `ce` ノードをアップグレードする場合は、管理者権限を持つユーザではなく、デフォルト OS 管理者アカウントを使用する必要があります。デフォルト OS 管理者アカウントを使用しないと、必須のサービスをインストールするためにアップグレードに必要な特権レベルがなくなり、アップグレードが失敗する可能性があります。**show myself** CLI コマンドを実行すると、アカウントの特権レベルを確認できます。アカウントには特権レベル 4 が必要です。

この制限は、IM およびプレゼンスサービスの CLI によって開始されるアップグレードにのみ適用され、ユニファイドコミュニケーションマネージャには適用されないことに注意してください。また、この制限は、新しい ISO ファイルでは修正される可能性があることに注意してください。特定の ISO ファイルの詳細については、ISO Readme ファイルを参照してください。この制限に関する最新情報については、<https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/bug/CSCvb14399> の CSCvb14399 を参照してください。

## 以前のバージョンへのロールバック

### IM and Presence の標準的な展開

IM and Presence サービスの標準展開で、アップグレードの問題が発生し、以前のバージョンにロールバックする必要がある場合は、Cisco ユニファイドコミュニケーションマネージャと IM およびプレゼンスサービスの両方のインストールを以前のバージョンにロールバックする必要があります。そうしないと、サポートされていないバージョンの不一致が生じます。

標準展開では、Cisco ユニファイドコミュニケーションマネージャバージョンのロールバックと、IM およびプレゼンスサービスのバージョンを 11.5(1)SU4 のままにすることはサポートされていません。同様に、IM およびプレゼンスサービスバージョンをロールバックし、Cisco ユニファイドコミュニケーションマネージャバージョンを 11.5(1)SU4 のままにすることはサポートされていません。

### 中央集中型の例外

このルールの特例は、IM and Presence とテレフォニーが異なるクラスタによって使用されているため、IM and Presence の集中型展開で発生します。IM and Presence の集中クラスタ内では、Cisco ユニファイドコミュニケーションマネージャのデータベースインスタンスは、IM およびプレゼンスサービスと同じバージョンを実行する必要があります。ただし、IM およびプレゼンスサービスが接続する別のテレフォニークラスタは、別のバージョンを実行できます。



## FIPS Mode を有効にした状態でのアップグレード

リリース 11.5(x) では、Cisco ユニファイド コミュニケーション マネージャ および IM および プレゼンス サービス は、FIPS モードが有効になっている場合、2048 ビット未満のキーサイズの RSA 証明書をサポートしていません。これは、サーバ証明書と LSCs に影響します。

FIPS モードが有効になっているリリース 11.5 (x) にアップグレードしており、現在のバージョンで 2048 ビット未満の RSA キーサイズを使用している場合は、次のいずれかの項目を実行して問題を解決できます。

次のいずれかの操作を実行できます。

- 現在のバージョンが 2048 ビットのキーサイズをサポートしている場合は、アップグレードする前に影響を受ける証明書を再生成します。または、
- リリース 11.5(x) にアップグレードした後、影響を受ける証明書を再生成します。



(注) このオプションを選択すると、セキュアな接続では、RSA キーサイズが 2048 ビット以上になるまで、影響を受ける証明書の使用は許可されません。

## 混合モードでのアップグレードには暗号化ライセンスが必要

このリリースでは、混合モードで Cisco ユニファイド コミュニケーション マネージャ を実行するためには暗号化ライセンスをインストールする必要があります。Cisco ユニファイド コミュニケーション マネージャ の以前のリリースからアップグレードする場合、クラスタセキュリティが混合モードに設定されている場合は、暗号化ライセンスを取得して Cisco PRIME ライセンス マネージャ にインストールする必要があります。

混合モードを有効にして旧リリースからアップグレードしているものの、暗号化ライセンスをインストールしていない場合は、アップグレードの直後に、ユーザインターフェイスに暗号化ライセンスについての警告メッセージが表示されます。また、**CiscoSystemEncryptionNotAllowed** アラートが表示されます。混合モードで引き続きシステムは稼働しますが、CTL ファイルをアップデートすることはできず、暗号化ライセンスをインストールするか、クラスタのセキュリティ設定を非セキュアモードに戻すまで警告が表示され続けます。可能な限り早い段階で暗号化ライセンスをインストールすることにより、中断なく混在モードで実行し続けることができるようにすることをお勧めします。

アップグレード時に混合モードで実行していなかった場合は、暗号化ライセンスを Cisco ユニファイド コミュニケーション マネージャ に適用して同期が完了するまで、クラスタを混合モードにすることはできません。

### ライセンスファイルの発注とインストール

次の表では、暗号化ライセンスを使用してシステムを更新する方法について説明します。

表 9: 暗号化ライセンスを使用したシステムの更新

手順	タスク	説明
ステップ 1	ENCPAK ライセンスファイルを取得する。	<p><a href="https://tools.cisco.com/gct/Upgrade/jsp/index.jsp">https://tools.cisco.com/gct/Upgrade/jsp/index.jsp</a>の製品アップグレードツールを使用して暗号化ライセンスを注文するには、CUCM-PLM-ENC-K9= part number を使用します。</p> <p>ライセンスの発注方法については、<a href="http://www.cisco.com/c/en/us/partners/tools/collaboration-ordering-guides.html">http://www.cisco.com/c/en/us/partners/tools/collaboration-ordering-guides.html</a>にあるお使いのライセンスの『<i>Cisco Unified Communications Solutions Ordering Guide</i>』を参照してください。</p> <p>(注) 展開で Cisco PRIME ライセンスマネージャの複数のインスタンスを使用している場合は、PRIME ライセンスマネージャインスタンスごとに個別の暗号化ライセンスを注文する必要があります。</p>
ステップ 2	Cisco Prime ライセンス マネージャに暗号化ライセンスファイルをインストールします。	<p><a href="http://www.cisco.com/c/en/us/support/cloud-systems-management/prime-license-manager/products-user-guide-list.html">http://www.cisco.com/c/en/us/support/cloud-systems-management/prime-license-manager/products-user-guide-list.html</a>の『<i>Cisco PRIME ライセンス マネージャ ユーザ ガイド、リリース 11.5 (1) SU2</i>』の「既存のライセンスのアップグレード」の手順に従います。</p>
ステップ 3 :	ライセンスの同期	<p>Cisco Prime ライセンス マネージャで、<b>[製品インスタンス(Product Instances)]</b> タブを選択し、<b>[ライセンスの同期(Synchronize licenses)]</b>をクリックします。</p> <p>詳細は、<i>Cisco Prime ライセンス マネージャ ユーザ ガイド、リリース 11.5(1)SU2</i>を参照します。</p>

## Microsoft SQL Server を使用したアップグレードに必要なデータベース移行

Microsoft SQL Server を IM and Presence サービスで外部データベースとして展開していて、11.5(1)、11.5(1)SU1 または 11.5(1)SU2 からアップグレードする場合は、新しい SQL Server データベースを作成して新しいデータベースに移行する必要があります。この作業は、このリリースで強化されたデータタイプのサポートのために必要です。データベースを移行しないと、既存の SQL Server データベースでスキーマの検証に失敗し、持続チャットなどの外部データベースに依存するサービスが開始されません。

IM and Presence サービスをアップグレードした後、この手順を使用して、新しい SQL Server データベースを作成し、新しいデータベースにデータを移行します。



(注) この移行は、Oracle または PostgreSQL の外部データベースでは必要ありません。

### はじめる前に

データベースの移行は、MSSQL\_migrate\_script.sql スクリプトに依存します。コピーを入手するには、Cisco TAC にお問い合わせください。

表 10:

手順	タスク
ステップ 1	外部 Microsoft SQL Server データベースのスナップショットを作成します。
ステップ 2	<p>新しい（空の）SQL Server データベースを作成します。詳細については、『<i>Database Setup Guide for the IM and Presence Service</i>』の次の章を参照してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「Microsoft SQL Installation and Setup」：アップグレードされた IM and Presence サービスで新しい SQL サーバデータベースを作成する方法の詳細については、この章を参照してください。</li> <li>「IM およびプレゼンスサービス External Database Setup」：新しいデータベースを作成した後、この章を参照して、IM and Presence サービスにデータベースを外部データベースとして追加します。</li> </ol>

手順	タスク
ステップ 3	<p>システムトラブルシュータを実行して、新しいデータベースにエラーがないことを確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、<b>[診断 (Diagnostics)]</b> &gt; <b>[システムトラブルシュータ (System Troubleshooter)]</b> を選択します。</li> <li>2. <b>[外部データベーストラブルシュータ (External Database Troubleshooter)]</b> セクションにエラーが表示されていないことを確認します。</li> </ol>
ステップ 4	<p>すべての IM and Presence サービスのクラスタ ノード上で Cisco XCP ルータを再起動します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>[Cisco Unified IM and Presenceのサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)]</b> から、<b>[ツール (Tools)]</b> &gt; <b>[コントロールセンター-ネットワークサービス (Control Center - Network Services)]</b> を選択します。</li> <li>2. <b>[サーバ (Server)]</b> メニューから、IM and Presence サービス ノードを選択し、<b>[移動 (Go)]</b> をクリックします。</li> <li>3. <b>[IM およびプレゼンスサービス (IM and Presence Services)]</b> の下で、<b>[Cisco XCPルータ (Cisco XCP Router)]</b> を選択し、<b>[リスタート(Restart)]</b> をクリックします</li> </ol>
ステップ 5	<p>外部データベースに依存するサービスをオフにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>[Cisco Unified IM and Presenceのサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)]</b> から、<b>[ツール (Tools)]</b> &gt; <b>[コントロールセンター-機能サービス (Control Center - Feature Services)]</b> を選択します。</li> <li>2. <b>[サーバ (Server)]</b> メニューから、IM and Presence ノード(IM and Presence node)を選択し、<b>[移動 (Go)]</b> をクリックします。</li> <li>3. <b>[IM and Presenceサービス (IM and Presence Services)]</b> の下で、次のサービスを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco XCP Text Conference Manager</li> <li>Cisco XCP File Transfer Manager</li> <li>Cisco XCP Message Archiver</li> </ul> </li> <li>4. <b>[停止 (Stop)]</b> をクリックします。</li> </ol>
ステップ 6	<p>次のスクリプトを実行して、古いデータベースから新しいデータベースにデータを移行します。MSSQL_migrate_script.sql</p> <p>(注) このスクリプトのコピーを入手するには、Cisco TAC にお問い合わせください。</p>

手順	タスク
ステップ 7	<p>システムトラブルシュータを実行して、新しいデータベースにエラーがないことを確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、<b>[診断 (Diagnostics)]</b> &gt; <b>[システムトラブルシュータ (System Troubleshooter)]</b> を選択します。</li> <li>2. <b>[外部データベーストラブルシュータ (External Database Troubleshooter)]</b> セクションにエラーが表示されていないことを確認します。</li> </ol>
ステップ 8	<p>以前に停止したサービスを開始します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>[Cisco Unified IM and Presenceのサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)]</b> から、<b>[ツール (Tools)]</b> &gt; <b>[コントロールセンター-機能サービス (Control Center - Feature Services)]</b> を選択します。</li> <li>2. <b>[サーバ (Server)]</b> メニューから、<b>IM and Presence ノード (IM and Presence node)</b> を選択し、<b>[移動 (Go)]</b> をクリックします。</li> <li>3. <b>[IM and Presence サービス (IM and Presence Services)]</b> の下で、次のサービスを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco XCP Text Conference Manager</li> <li>Cisco XCP File Transfer Manager</li> <li>Cisco XCP Message Archiver</li> </ul> </li> <li>4. <b>[開始 (Start)]</b> をクリックします。</li> </ol>
ステップ 9	<p>外部データベースが稼働していることと、すべてのチャット ルームが Cisco Jabber クライアントから認識可能であることを確認します。新しいデータベースが動作していることが確かな場合にのみ、古いデータベースを削除してください。</p>

## プッシュ通知が有効な 11.5(1)SU2 からのアップグレード

11.5(1)SU2 リリースからアップグレードしていて、旧リリースでプッシュ通知が有効になっていた場合は、現在のリリースでプッシュ通知を無効にしてから、オンボーディングプロセスに従ってプッシュ通知を再度有効にする必要があります。この作業は、11.5(1)SU2 リリースの一部ではなかった、このリリースでの API 変更のために必要です。プッシュ通知を無効してから、このリリースのオンボーディングプロセスに従わないと、アップグレードしたシステムはトラブルシューティング ログを Cisco Cloud に送信できません。

システムをアップグレードした後、次の操作を行います。

## 手順

---

### ステップ1 プッシュ通知を無効化する

次の手順に従ってください。

1. Cisco Unified CM の管理から、[詳細機能 (Advanced Features) ] > [Cisco Cloud オンボーディング(Cisco Cloud Onboarding)] を選択します。
2. 次のチェックボックスをオフにします。
  - プッシュ通知を有効化する
  - Cisco Cloud にトラブルシューティング情報を送信する
  - トラブルシューティングのために暗号化された PII をCisco Cloud に送信する
3. [保存 (Save) ] をクリックします。

### ステップ2 このリリースのプッシュ通知を有効にする。

完全オンボーディング プロセスについては、『*Deploying Push Notifications for Cisco Jabber on iPhone and iPad*』 ([http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/cucm/im\\_presence/pushNotifications/11\\_5\\_1\\_su2/cucm\\_b\\_push-notification-deployment-iPhone-iPad.html](http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/cucm/im_presence/pushNotifications/11_5_1_su2/cucm_b_push-notification-deployment-iPhone-iPad.html)) の「Push Notifications Configuration Task Flow」を参照してください。

---